

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 中村 範子

論 文 題 目

Molecular Epidemiology of Enteric Viruses in Patients With Acute Gastroenteritis in Aichi Prefecture, Japan, 2008/09–2013/14

(愛知県における急性胃腸炎患者由来胃腸炎ウイルスの分子疫学的解析 (2008/09～2013/14))

論文審査担当者

主 査

委員

名古屋大学教授

木村 宏



名古屋大学教授

委員

八木 哲也



名古屋大学教授

委員

安藤 雄一



名古屋大学教授

指導教授

岩谷 靖雅



論文審査の結果の要旨

今回、愛知県における感染性胃腸炎起因ウイルスの流行状況把握を目的として、2008年9月から2014年8月(6シーズン)にサーベイランスの目的で採取された散発性感染性胃腸炎患者の糞便1,644検体及び吐物227検体、計1,871検体を用い、ノロウイルス(NoV)、ロタウイルスA(RVA)、サポウイルス(SaV)、ヒトアストロウイルス(HAstV)、腸管アデノウイルス(AdV)の遺伝子検出及び分子疫学解析を実施した。6シーズンを通じて多様な胃腸炎ウイルスが検出されたが、NoV GIIが主要な胃腸炎起因ウイルスであった。中でもGII.4が主流の遺伝子型であり、2012/13シーズンに新たなGII.4亜型(Sydney_2012)が出現し、NoV大流行の要因となった。

本研究に対し、以下の点を議論した。





1. AdVは多数の血清型に分類され、多彩な臨床症状を引き起こす。中でも40型と41型は胃腸炎の原因と考えられ、「腸管アデノウイルス」と呼ばれる。研究期間中、腸管アデノウイルス以外のAdV(1、2、3、4、5、6、31、56型)を分離若しくは検出しているが、それらと胃腸炎との因果関係が不明であるため、本研究では腸管アデノウイルスの検出についてのみ報告を行った。
2. 糞便と吐物を比較した際、検出ウイルスの種類に差は認められなかった。しかし、吐物からのウイルス検出率(33.0%)は糞便からの検出率(54.9%)よりも低値であった。
3. 抗NoV抗体は遺伝子型及び亜型に特異的であり、数年程度持続するという報告がある。本研究期間中、同時期に複数の遺伝子型および亜型のNoV流行を確認していることから、一人の患者が同時期に複数回の感染を起こす状況は十分考えられる。
4. 研究期間中、NoV GII.17は全く検出されなかった。
5. NoVの防疫対策において遺伝子群や遺伝子型、亜型に基づく違いはない。具体的な対策としては、手洗いの励行、二枚貝などの食品は中心部が85℃から90℃で90秒以上の加熱、感染者の排泄物等の適切な処理等が挙げられる。
6. 研究期間中に任意接種開始となったワクチンによる影響、また、検体採取に携わる医療機関における影響等が要因として考えられる。本研究でのRVA検出数の増減は全国状況と一致していた。

本研究は、愛知県における感染性胃腸炎起因ウイルスの流行状況把握する上で、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	中村 範子
試験担当者	主査 木村 宏  八木 哲也  安藤 雄一  指導教授 岩谷 靖雅 			

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. アデノウイルスの検出について
2. 検体の種類とその検出率について
3. ノロウイルス感染と免疫について
4. 研究期間中のノロウイルスGII. 17の検出について
5. ノロウイルスに対する防疫対策について
6. ロタウイルス検出数減少の要因について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、免疫不全統御学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。